

新たなPHRサービスの実用化検証が拡大する

◆大阪・関西万博で10種類の新たなPHRユースケースの実用化検証が行われる

2024年10月8日、EXPO-PHR運営事務局は、大阪・関西万博に向けて、経済産業省の実証事業である「令和5年度補正PHR社会実装加速化事業」の一環として、20事業者によって創出された10件のPHRユースケースを発表した。

※PHRとは「Personal Health Record」の略で、日常生活の中で計測するライフログ（カロリー、歩数）やバイタルデータ・健康診断結果などを指す。PHRユースケースとはPHRを活用したサービス・商品のこと。

この実証事業は、PHRによる“自然と健康になれる社会”の実現を目指すものであり、新たに構築された情報連携基盤「PHR CYCLE」を通じて、食事、睡眠、運動などの健康データを複数の事業者間で安全に共有・活用するものだ。「PHR CYCLE」は、ユーザーIDによる管理やオプトイン（事前の明示的同意）の一元化機能を備え、25年4月以降の大阪・関西万博での一般公開が予定されている。スマートフォンなどを介して、PHRデータが、自分自身の嗜好に合致した多様なサービス提供につながる状況を実体験できるのだ。

領域	ユースケース名	サービス事業者名	PHR事業者名	具体的な内容
食 事	今日何食べよ？byカロママプラス～あなたの体調や好み!?を考えたお食事をパーソナルにご提案～	Wellmira	Arteryex、Y4.com	「カロママ プラス」に記録された食事、運動、睡眠、気分などのライフログデータと、「パシャッとカルテ」「Vital gain」に記録された服薬や健診情報をもとに、AIが個々のユーザーに最適な食事メニューと健康アドバイスを提案する。
	わくわく！野菜でカラフルVR！～あなたとあなたの大切な人たちでミライの健康を実践～	カゴメ	NTTドコモ	「ベジチェック」で測定した野菜摂取レベルと、「健康マイレージ」のヘルスケア推奨AIによる健康状態スコアに基づき、VR空間で敵と戦うゲームを通じて、楽しく健康を守り、生活習慣の改善を促す。
睡 眠	～New・Wellness Sleep Program～アプリとホテルステイで栄養士による眠活サポート！	グリーンハウス	Arteryex、Y4.com	食事・睡眠データや健康診断の結果に基づいた睡眠アドバイスをアプリで提供。ホテルステイを通じて詳細な睡眠データを計測し、専任アドバイザーや管理栄養士によるパーソナライズされたアドバイスで快適な睡眠をサポートする。
	ZZZN SLEEP APPAREL	NTT DXパートナー	SOXAI	PHRデータと連動して、着用している服に内蔵された光と音が作動し、利用者の健康データに基づいた最適なタイミングで分眠（仮眠含め）を促し、心地よい睡眠をサポートする。
	もっとグッスリ（More loT for good sleep）	LIXIL	沢井製薬、FiNC Technologies	「FiNCアプリ」と「SaluDiアプリ」の健康データを活用し、日中の活動量や体調を把握。LIXILのアプリを通じて、入浴～入眠～睡眠中～起床時に適切な住宅機器のコントロールや行動リコメンドを行い、快適な睡眠を誘導する。
運 動	過剰なカロリーぶった斬れ！VRチャンバラエクササイズ！	ジーン	Wellmira、NTTドコモ	VR空間で戦国武士となり、コントローラーで敵を斬るエクササイズゲーム。プレイヤーの身長・体重、活動量、食事、睡眠、免疫力などのPHRデータに基づいて、ゲーム内のライフや刀の長さ、回復アイテムが変化する。
	トトレで楽しく歩く→カラダスマイル！	リアルワールドゲームス	エムティーアイ、大阪府	「位置情報サービス『トレイントレイン』」と、「CARADA健診サポート」のPHRデータ、「アスマイル」のPHRデータを連携させ、利用者が楽しく歩くことで自然に健康になれるサービスを目指す。
ラ イ フ ス タ イ ル	話せるPHR ～あなた自身と健康チャット～	サステナブルバビリオン2025	Wellmira、NTTドコモ	ユーザーの3Dアバターと、「カロママ プラス」のライフログデータや健康アドバイス、「健康マイレージ」の健康状態推奨スコアを連携させ、自分だけの健康アドバイザーを作り出すことを目指す。
	ウェルネス・サポーター ～あなた専用の行動変容サポート～	WizWe	Y4.com	ミドル～シニア世代向けに、PHRアプリやウェアラブルデバイスから収集される運動・睡眠データに基づき、フォローメッセージを配信し、介護予防および認知症予防を目的とした健康行動の継続を支援する。
	SCANBE 3Dボディスキャンから始まるヘルスケア体験	ワコール	asken	ワコールの3D計測サービス『SCANBE』と、askenの食事管理アプリ『あすけん』のPHRデータを連携。3Dボディデータや食事管理データを閲覧し、利用者のニーズや理想に基づいて、食事や運動メニューを提案する。

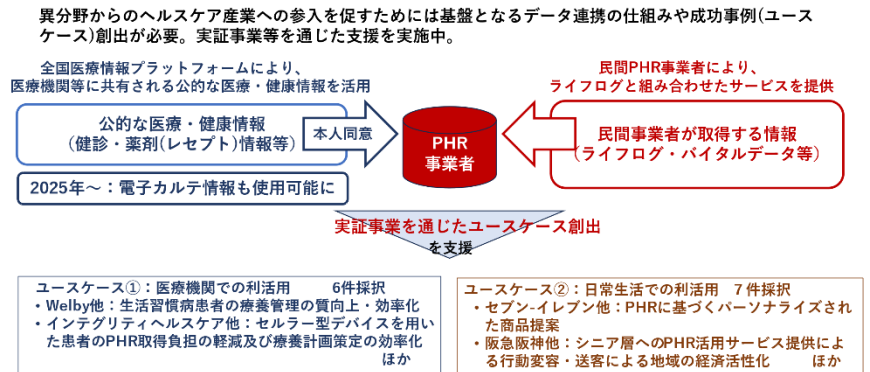
出典：各社プレスリリース資料からARC作成

◆万博以外にも、医療機関や日常生活でのPHR利活用の実証事業が進む

万博以外の場でも、PHRの利活用のユースケースの実証は継続的に実施されている。医療機関でのPHR活用については、23年度の経産省実証事業で、データの共通化の困難さ、業務プロセスへの適応、医療従事者の利用意欲の低さ、導入インセンティブ不足などの課題が判明した。これを受け、24年度は医療機関が導入・利用しやすいPHR

サービスの開発と、その成功事例の創出による普及促進を目指している。Welby社による「生活習慣病患者の療養管理の質向上・効率化」など6件が実施されている。

PHRを活用した新たなサービスの創出（24年度予算での経済産業省の取組み）



出典：2024年12月19日 第1回健康経営推進検討会 事務局資料④を元にARC作成

日常生活での利活用の検証も進められている。異業種連携を通じた、生活者のニーズに即した多様なPHRサービスの創出、持続的な利益創出につながるビジネスモデルの構築、PHRサービスの認知度向上の3つを目標に、7件のユースケースの検証（例：セブンイレブンほかによる「PHRに基づくパーソナライズされた商品提案」など）が実施されている。

◆2025年を機会にPHRサービスの利活用は大きな拡大をみせるか？

万博というタイミングで、PHRサービスを初めて知る人も少なくないと考えられる。10のユースケースのうち一つでも参加者の関心を惹きつけられれば、「PHR CYCLE」という情報連携基盤の効果も期待できる。日常生活でのPHRサービスの利活用のユースケースを拡大するチャンスだ。興味を持った利用者にユースケース継続を促すメリットを実感させ、習慣化に持ち込ませる仕組みが重要だ。

一方、医療機関での利活用拡大はすぐには期待できない。医療機関側がPHRユースケースを使用するメリットが高くない状態では、医療機関側がPHRユースケース使用を勧めることも少ないだろう。医療機関側情報とPHRの関連付けは予防医療に効果が期待できるが、その実現は日常生活での利活用が進み、医療機関側での業務使用も当たり前になる段階まで待つ必要があるだろう。【佐伯章文】